

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

メッセージ7

キリストをパン種のないパンの祭りの実際として享受する

聖書：出 12:15-20. Iコリント 5:6-8. ルカ 12:1. マタイ 16:6, 12. マルコ 8:15.

Iテモテ 1:3-4. 5:1-2

- I. イスラエルの子たちは、七日間、過越の祭りの継続としてパン種のないパンの祭りを守るようになっていました（出 12:15-20. Iコリント 5:6-8）。パン種は罪、邪悪な事柄、消極的な事柄、邪悪な教理、異なる、奇妙な教えを表徴します（マタイ 16:6, 11-12. ガラテヤ 5:9. Iテモテ 1:3-4. ヘブル 13:9. レビ 2:4, 11）：
- A. パン種のないパンの祭りが七日間、すなわち、完成の期間続いたことは、わたしたちのクリスチャン生活全体、すなわち、わたしたちの回心の日からわたしたちの携え上げの日を表徴します。
 - B. これは長い祭りであり、わたしたちはそれを古いパン種、すなわち、古い性質の罪をもって守るのではなく、パン種のないパンをもって守らなければなりません。パン種のないパンとは、わたしたちの養いと享受としての、新しい性質のキリストです。
 - C. 祭りは祝宴の享受のための時です。クリスチャン生活全体はそのような祭りであるべきであり、キリストをわたしたちの祝宴として、また命の豊富な経路として享受することであるべきです——出. 12:16, 18-19。
 - D. 霊的に言って、わたしたちはみな、両足が不自由であった、サウル王の孫メピボセテのようです（サムエル下 4:4）。わたしたちはメピボセテのように、なおも両足が不自由であるのですが、王の食卓で食事をする事ができません——サムエル下 9:13 わたしたちの両足は不自由ですが、その両足は「食卓の下に」あります（9:1-3）。わたしたちは自分自身を見るときはいつでも、自分の足が不自由であることを見だし、失望してしまいます。そうではなく、わたしたちは自己内省から離れ去って、主の食卓の上の計り知れないキリストの豊富だけをひたすら見詰め、パン種のない祝宴としての彼を享受する必要があります（参照、雅 2:8—3:5）。
 - E. イスラエルの子たちには、パン種が見られてはなりませんでした。これが表徴するのは、わたしたちが自分の自覚している罪を対処しなければならないということ、すなわち、あらわにされている罪、見える罪を対処しなければならないということです——出 13:7. 12:19. Iコリント 5:7 前半. ヘブル 12:1-2 前半。
 - F. あらわにされている罪を対処することは、パン種のないパンの祭りを守ることで、もしわたしたちが暴露されている罪を容認するなら、神の民の交わりの享受

を失います——出 12:19. I コリント 5:13。

- G. 罪を除き去る唯一の道は、神の御前で罪人としてへりくだることによってであり（箴 20:9. 伝 7:20. ルカ 18:9-14）、またパン種のないパンによって表徴されるキリストを、十字架につけられ、復活した、罪のない命として日々食べることによってです（ヨハネ 6:57, 63. 詩 119:140. エレミヤ 15:16）。

II. 「パリサイ人のパン種に警戒しなさい。それは偽善である。パリサイ人の教えは偽善的でした——ルカ 12:1. マタイ 23:13-15, 23, 25-32 :

- A. バビロンの原則は偽善です（25-32 節. ルカ 12:1）。背教の召会は、金、真珠、宝石をもって堅固に建造されているではありません。彼女は、装飾としてのこれらの財宝で飾られているにすぎません。それは外側の見せびらかしと偽りの虚飾のためです（啓 17:4,6） :

1. アカンの罪の意味は、彼がバビロンの美しい衣服をむさぼって探し、自分自身を飾り、自分自身をより良く見せ、虚飾を求めたことでした。わたしたちは、自分の実際の状態に符合しない衣服を着て、人からの栄光を受けるときはいつも、バビロンの原則の中にいます——ヨシュア 7:21. マタイ 6:1-6. 15:7-8。
2. これは、聖霊を欺いたアナニアとサツピラの罪でした（使徒 5:1-11）。彼らはあまり主を愛していませんでしたが、大いに主を愛した者のように見られたかったのです。彼らは振りをしていたにすぎませんでした。彼らは、すべてのものを喜んで神にささげようとしませんでした。人の前で、すべてをささげたかのように行動しました。

- B. 虚偽の中で行なわれて人から栄光を現そうとするすべてのものは、花嫁の原則ではなく、遊女の原則で行なわれます——ヨハネ 5:44. 12:42-43。

1. 神の子供たちが、人から栄光を受けるために人前で見せかけをすることから救い出されることは、大きな事です——マタイ 6:1-6. 15:7-8。
2. 偽りの献身は罪です。偽りの霊性も罪です。真の礼拝は、霊と真実の中にあります——ヨハネ 4:24. 5:41, 44. 7:18. 12:42-43. II コリント 4:5. I テサロニケ 2:4-6。

III. 「パリサイ人とサドカイ人のパン種に気をつけ、警戒しなさい」（マタイ 16:6）。
「その時、彼らは、彼が警戒せよと言われたのはパン種ではなく、パリサイ人とサドカイ人の教えのことであると理解した」（12 節） :

- A. サドカイ人の教えは、今日の近代主義のように、復活、御使い、霊を否定しました（使徒 23:8）。
- B. こういうわけで、パリサイ人の教えとサドカイ人の教えは、純粹でなく、邪悪であり、神の民の間で見られるべきでないパン種にたとえられました——出 13:7。

IV. 「ヘロデのパン種を警戒しなさい」——マルコ 8:15 :

- A. ヘロデのパン種は、政治における彼の墮落と不正でした。ヘロデがバプテスマの

ヨハネを殺害したことは、サタンの憎悪を示しています。この世の権力の暗やみと不正によって、サタンの憎悪は奴隷・救い主の忠信な先駆者に対して表されました——6:26-27。

- B. わたしたちは聖徒たちとの接触や諸召会におけるわたしたちの働きにおいて策を弄すべきではありません。策を弄することは装いと「外交」の方法を取って、わたしたちの賢さを用いて他の人たちを怒らせることを避けることです。そうではなく、わたしたちは正直で、忠信で、全き純潔の方法で聖徒たちと接触し、キリストを命として彼らに供給すべきです——Iテモテ 5:1-2. IIコリント. 3:3, 6。
- V. サタンが召会を発酵させるのは、異なる、奇妙な教えをもって、すなわち、神の永遠のエコノミーの教え、使徒たちの教え以外の教えをもってです—— I テモテ 1:3-4. 使徒 2:42. ヘブル 13:9. マタイ 13:33。
- VI. サタンが召会を発酵させるのは、聖職者階級制度をもって、兄弟たちの間でかしらになりたがることをもってです。これらの者たちは他の人たちとブレンディングされること（十字架を経過することによって他の人たちと交わり、その霊によってあらゆる事を行ない、あらゆる事を語って、キリストのからだの実際のためにキリストを分与すること）を学んでいません。彼らは他の人たちに何をすべきかを告げることができるだけです。そして彼らは自分たちが無であるのに、ひとかどの者であると考えており、こうして自分自身を欺いています——IIIヨハネ 9. ガラテヤ 6:2-3. 参照、マタイ 20:25-28. 23:6-11 :
- A. わたしたちは主のためのいかなる働きにおいても、他の人たちをねたむことによって、決して第一になることを求めてはなりません。主の働きにおける競争心は、野心のしるしであるだけでなく、高ぶりのしるしでもあります——ルカ 17:10. ピリピ 1:15. ガラテヤ 5:25-26。
- B. 自分自身について思うべきことを超えて思い上がることは、別の形の高ぶりです（ローマ 12:3）。自己の誇り、自己を高く上げること、自己に栄光を帰すこと、虚栄をむさぼることはすべて、醜く卑しい表現の高ぶりです（ガラテヤ 5:25-26）。
- C. 大いなる者になることを求めて、しもべになることを求めないこと、第一になることを求めて、奴隷になることを求めないこともまた、高ぶりのしるしです——マタイ 20:26-27。
- VII. サタンが召会を発酵させるのは、聖徒たちの生活の中で主としてのキリストに置き換わることによって、彼らに権力を振るうことによってです—— I ペテロ 5:3. マルコ 10:42-44. 参照、IIコリント 4:5 :
- A. 他の人たちにまず祈るように導かずに、彼らにどこに移住すべきか、あるいは何をすべきかを告げることが、キリストの主権と頭首権を侮辱することです。
- B. ある兄弟がどこに移住すべきか、何を行なうべきかをあなたに告げたという理由だけで、祈りの中で主に行かずに、どんな場所に移住することも、あるいはどん

な事を行なうことも、キリストの主権と頭首権を侮辱することです。

- C. このことの唯一の例外は、パウロと彼の同労者たちの小さな群れの間の有機的な関係の中で見られます。パウロは主の権威をもって彼らに特定の場所に行き、来て彼と共にいるように命じました。ニー兄弟は、パウロとテモテとの関係に似ているこの模範に従いました。約十人だけがこのようにニー兄弟と組み合わせられました——Ⅰテモテ 1:3. Ⅰコリント 4:17. 16:10. Ⅱテモテ 4:21。

VIII. サタンが召会を発酵させるのは、ののしる言葉を通してです：

- A. わたしたちはののしる言葉を語ってはなりません。ののしることは、厳しくあるいは口汚く、叱責したり、批判したりすることです。ののしることは、口汚い言葉を用いて人を攻撃することです。ののしることは、ある人を叱責するだけでなく、彼を激しく傷つけ、公の無礼や傲慢から起こる軽蔑をもって彼を踏みにじることです——ガラテヤ 5:14-15, 25-26。
- B. ののしる者は、高圧的な態度や支配的な語りかけによって、聖徒たちをおびえさせたり、従属させたりします。ののしる者は、奴隷仲間を打ちたたく者です。それが意味するのは、彼らが奴隷仲間を習慣的に虐待しているということです。ののしる者は、神の王国を継ぐことはありません——マタイ 24:45-51. Ⅰコリント 6:9-10。
- C. ののしる言葉を聞く人は、ののしる言葉を語る人と同じ責任を負います。召会が一を維持するために、兄弟姉妹はののしる言葉に抵抗しなければなりません——参照、民 6:6。
- IX. サタンが召会を発酵させるのは、主の最新の言葉の務めを通しての時代の奉仕者の教えと語りかけに緊密に従わない者たちを通してです。わたしたちの神は、生きて行動しており、常に彼の語りかけによって行動します——Ⅱテモテ 3:10. Ⅰテモテ 4:6. アモス 3:7. エゼキエル 1:3. 3:1-4：
- X. サタンが召会を発酵させるのは、一つの制御するビジョン、神の永遠のエコノミーのビジョンに内在的に内側で従うのではなく、一人の制御する人に単に外側で従うという実行をもってです——使徒 26:19。
- XI. サタンが召会を発酵させるのは、地方主義をもってです。ある人たちは彼らの地方召会が独立的で、自治的であり、干渉されるべきではないという態度を持っています。これは地方主義であり、これはキリストのからだの交わりの中にある召会ではありません：
- A. 独立した地方召会は実は地方分派です。わたしたちは召会の実行において十字架をいかなる地方主義に対しても適用しなければなりません。ある人たちは召会の立場の真理を誤って用いて、彼ら自身の帝国、彼ら自身の君主制を建て上げます。
- B. 召会の立場の主要な要素は、その霊の実際です。その霊は神聖な三一の生ける実際です（Ⅰヨハネ 5:6. ヨハネ 16:13）。この霊を通して、召会の立場は律法にお

いてではなく、命の中で適用されます。

- C. わたしたちは、地方召会が神のエコノミーの目標であると考えられるかもしれません。しかしながら、地方召会は目標ではなく、神が取って神のエコノミーの目標と最高峰、すなわち、キリストのからだの実際に到達するための手続きです。
 - D. わたしたちは地方召会の中にいる必要があります。それによってわたしたちはキリストのからだの実際の中へと導き入れられ、もたらされることができます。諸召会は頻繁に共に集まって、キリストのからだの実際のために共にブレンドすべきです。
 - E. 神はからだを調和（ブレンド）しました。それはからだに分裂がないためです（Iコリント 12:12, 24-25）。「調和（ブレンド）」は、「調整される」、「調和一致される」、「調節される」、「混ぜ合わされる」を意味します。
 - F. わたしたちの間でブレンドの実際を持つために、わたしたちはキリストのからだのために十字架を経過して、その霊によって、キリストを互いの中へと分与しなければなりません。ブレンドは、わたしたちがすべての区別を失うことを意味します。
- XII. 「主はわたしに、彼が多くの兄弟たちを備えたことを、見せてくださいました。彼らは奴隷仲間として、ブレンドの方法でわたしと共に仕えます。わたしは、これが主のからだのための主権ある備えであり、彼の務めを完成する最新の道であると感じています」——（リー全集、1994年-1997年、第5巻（下）、「感謝を伴う交わりの手紙」 1997年3月24日、ウィットネス・リー）。